

第3章 わかやまの自然と生活



有田川流域のミカン栽培と生活



関連地域の位置

有田ミカン

有田川は標高1,000mほどの山岳地にある高野山から流れる河川です。有田川とその支流域には、有田市と2つの町があり、農業や林業で生活している人は、県内の約15%にあたります。

和歌山県はミカンの栽培が盛んで、なかでも「有田みかん」は全国的に有名です。日本国内の18.2%を生産し、そのうち、有田地方は県内の49%を占めています。

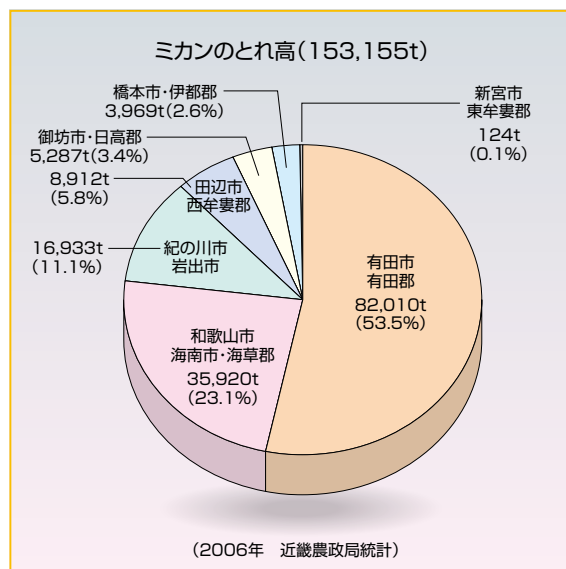
紀州のミカンは1529年にはすでに京都の貴族が土産物として持ち帰っていますが、特にこの地方で、ミカンの栽培が盛んになったのは江戸時代からです。

日当たりのよい有田地方の山の斜面はれきをふくみ、排水がよくて空気を通すのに優れているのでミカンの栽培が行われてきました。また、年間の平均気温が16℃、年間降水量も1,200mm程度で、雪が降ることもほとんどなく、ミカンの栽培には適した気候の土地です。



有田みかんの段々畑（有田市）

県と市場での競争をのりきる工夫をしています。ビニルハウスでのミカンづくりはその一つです。ハウス栽培のミカンは6月には収穫できて早い時期に出荷できるので値段もよく、高い収入をあげることもできますが、ハウスを建てたり、加温機を取りつけるなどの設備をととのえるのに多くの費用がかかっています。平均1ha以上の農家では、9月から12月にかけて早生から晩生まで、何種類かのミカンをつくり、そのあと3月までに



そのうえ、1953（昭和28）年の大洪水によって下流の水田が土砂にうずもれたこともあって、水田がミカン畑にかわり生産量がふえました。

山腹のミカン畑に行くための農道をつくったり、夏の水やりや消毒に役立つスプリンクラーを設けるなど、農作業が楽にできるように努力しています。一方

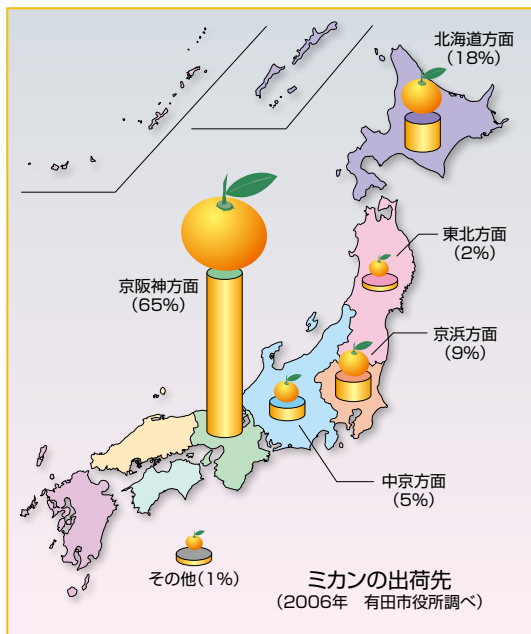
で、ほかの



ミカン畑のスプリンクラー（有田市）

*1 2006（平成18）年の全国生産量は84.2万tで、和歌山県15.3万t、愛媛県12.5万t、静岡県11.8万tである。（農林水産統計）

*2 第2編 第3章「紀州みかん」142ページ参照。



イヨカンやオレンジを栽培します。このように多くの種類のミカンを次々と収穫し、出荷しています。

収穫されたミカンの約半分は共同選果場に運ばれ、カラーセンサーを使って、一つひとつ大きさや色、きずのぐあいを調べてより分け、東京や大阪の^{だいしじょう}大市場へ出荷されています。このほかに個人で出荷する農家もあります。

7・18水害と二川ダム

1953年5月の終わりにから^{つゆ}梅雨に入り雨が降りつづいたうえ、7月17日から18日の朝にかけて平地で300mm以上、上流の山間地では500mm以上の雨が降りました。強い雨が短時間のうちに降ったため山崩れが^{くず}おこり、その土砂は^{にご}濁った水となって流れ、大量の土砂が集落を押しつぶしました。特

に上流の

かつらぎ町大字^{はなぞの}花園地区の被害は大きく、下流の有田市では有田川の堤防が切れ大水害になりました。

この7・18水害をきっかけに有田川の総合開発計画が立てられ、1967年、洪水をなくすための^{こうずい}県営^{ふたがわ}二川ダム^{*1}が有田川の中流に建設されました。

二川ダムは、梅雨や^{たいふう}台風^{ごうう}のときは集中豪雨で河川の水が増えないように調節し、その貯水した水を利用して水力発電もおこなっています。



有田川中流の二川ダム（有田川町）



わかやまの知識



蘭島の棚田

有田川の上流、有田川町清水に^{しみず あらじま たなだ}蘭島の棚田があります。

この棚田は江戸時代の初めごろ、大庄屋であった^{かきまつき だゆう}笠松佐太夫^{かい}が米の生産を増やすために開墾した水田といわれています。この棚田には54枚もの水田があります。

水田は一枚一枚が水を保つように水平でなければならぬので、平地に恵まれない傾斜地では棚田にするのです。

この棚田は、^{いしがき}石垣をつみあげて作った^{あと}努力の跡がみられ、昔の人が残してくれた大切な文化遺産で、「日本の棚田百選」にも選ばれています。



蘭島の棚田（有田川町）

* 1 コンクリートの重力で水量をささえる重力式ダムで、堤高67m、貯水量3,010万㎡。